

日本語から見たヒンディー語の連体修飾構造

—いわゆる「外の関係」を中心に—

今村 泰也

1. はじめに¹

日本語とヒンディー語はともに後置詞を持つ SOV 言語で、単文ではほぼ同じ語順をとる。両言語の大きな違いは連体修飾構造²で、日本語では修飾節を主名詞の前に置き³、どのような種類の関係（いわゆる「内の関係」「外の関係」）も同じ構造で表すのに対し、ヒンディー語には関係詞を用いた関係詞節をはじめ、複数の連体修飾構造がある。本稿では、主名詞と修飾節の間に格関係が成立しない「外の関係」（例：[さんまを焼く] 匂い）を中心に両言語の連体修飾構造を対照する。

2. 連体修飾構造のタイプ

寺村（1992）⁴は構文と意味の両面から（主として日本語の）連体修飾構造を分析している。寺村が示した連体修飾構造の類型は後述するように日本語のみならず、ヒンディー語の連体修飾構造を分析する上でも有効である。したがって、両言語の連体修飾構造の特徴を見る前に寺村の研究を概観しておく。

寺村は、主名詞（+格助詞）が修飾節の用言に対して補語と考えることのできるような関係を「内の関係」と呼び、主名詞にどのような格助詞を付けても修飾節のどこにも納めることができない、つまり、その主名詞は修飾節の外から来たものだとしか言えない関係を「外の関係」と呼んだ（pp. 195-6）。

(1) a. [さんまを焼く] 男 （←男がさんまを焼く）

b. [さんまを焼く] 匂い (p. 192)

次に寺村は「内の関係」と「外の関係」を意味的な側面から考察し、「内の関係」の連体修飾では修飾節が主名詞を「付加的」に修飾しているに過ぎない（特定はするが、その内容には関わらない）が、「外の関係」では修飾節が主名詞を「内容補足的」に修飾している（内容を表す、または少なくともその内容に関わる）と述べ、連体修飾構造を統語的・意味的に2つの類型に分けた（pp. 197-8）。

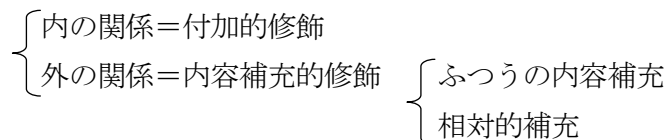
(2) a. [女房が近所の者から聞いた] 話 （←女房が話を近所の者から聞いた）

b. [女房の幽霊が三年目になってあらわれる] 話 (pp. 193, 199)

寺村は、「内容補足的」な修飾をさらに「ふつうの内容補充」（内容そのものをいわば正面から補充し、表す場合）と「相対的補充」（主名詞が本来的に相対する概念の内容を表す、いわば

「反面補充」とでも言うべき場合)の2つに区別した(詳細は次節)。以上を整理すると次のようになる。

(3) 寺村(1992: 202)による連体修飾構造の類型



なお、名詞句接近可能性階層(Noun Phrase Accessibility Hierarchy)⁵を提案した Keenan & Comrie (1977) が考察対象としている関係節は概ね「内の関係」に相当する。

3. 日本語の連体修飾構造

日本語の連体修飾構造については数多くの研究がある。先行研究の議論と問題点については、加藤(2003)、李(2005)、大関(2008)、大島(2010)などが詳しい。ここでは、日本語の連体修飾構造の特徴を簡単に述べた後、「外の関係」の下位分類を見る。

3.1 連体修飾構造の特徴

日本語の連体修飾構造は一般に次のような特徴を持つ。

- ① 修飾節が主名詞に先行する型(修飾節前置型)を典型とする。
- ② 連体修飾構造であることを示す統語的標識(英語などに見られる関係詞)がない。
- ③ 主名詞と修飾節の統語関係や意味関係が標示されない(格助詞などは消去される)。
- ④ 修飾節内の動詞は主節と同じ形(基本的には普通体)が使われる。

3.2 「外の関係」の下位分類

上述のように日本語では「内の関係」だけでなく、「外の関係」の連体修飾も成り立つ。しかし、どのような名詞でも「外の関係」の連体修飾が可能なのではない。寺村(1992)は主名詞の種類(意味的特性)によって「外の関係」を以下のように下位分類している。

- ① 発話・思考の名詞……「言葉」「手紙」「命令」「噂」,「思い」「考え」「期待」「意見」など
 - (4) 「[人生は地獄よりも地獄的である]という」言葉
 - (5) 「[心は薄氷の上を歩く]」思いだった。
- ② 「コト」を表す名詞……「事実」「話」「習慣」「歴史」「夢」「可能性」「仕事」「方法」など
 - (6) 「[少納言と彼女(紫式部)が逢った]」事実は、未だ発見されない。
 - (7) 「[ローマとカルタゴが戦った]」歴史
- ③ 感覚の名詞……「姿」「形」「色」「音」「匂い」「味」「感触」「絵」「写真」「光景」など
 - (8) 「[だれかが病室の扉をそっと開ける]」気配がする。
 - (9) 「[肩を叩いたり握手をしたりする]」シーンがあちこちで見られた。

- ④ 「相対性」の名詞……「上⇔下」「前⇔後」「(当日) ⇔翌日」「原因⇔結果」「罪⇔罰」など
- (10) [私たちが勉強をしている] 上で誰かが柔道の練習をしていた。
- (11) [深酒をした] 翌日
- (12) [火事が広がった] 原因は空気が乾燥していたことだ。
- (13) [人をだました] 罰

①～③は「ふつうの内容補充」、④は「相対的補充」に当たる⁶。「相対的補充」を成り立たせる名詞は、空間的な前後左右（上例(10)）、時間的な前後関係（(11)）、および因果関係を表す名詞（(12), (13)）であることが知られ、これらに共通する意味的特性は「相対的關係」を表すことである⁷。

3.3 その他の連体修飾構造

寺村（1992: 214）は「内の関係」の特殊な「短絡」した構文（主名詞にいろいろな格助詞をつけてもそれだけでは修飾節と結びつかない）として次例を挙げている。

- (14) [頭のよくなる] 本 （←この本を読めば頭がよくなる）
- (15) [彼女が腹を痛めた] 娘 （←その娘を生むために彼女が腹を痛めた）

また、松本（1993, 1994）は、統語的観点からは「内の関係」構文からはみ出してしまい、意味論的・語用論的知識が必要な連体修飾構造として、次のような例を挙げている。

- (16) [トイレに行けない] コマーシャル
- (17) [高校入試に絶対受かる] 家庭教師
- (18) [将来お金が稼げない] 勉強

4. ヒンディー語の連体修飾構造

次にヒンディー語の連体修飾構造を見る。ヒンディー語には連体修飾構造を形成する手段として、①分詞を用いる方法、②不定詞を用いる方法、③関係詞を用いる方法、④同格節を用いる方法があり、前の2つは非定形動詞による修飾節前置型、後の2つは定形動詞による修飾節後置型である。英語の伝統文法の定義からすればテンス（時制）を持たない非定形動詞（すなわち分詞や不定詞）からなる修飾部は節とは言えないが、本稿では言語間で連体修飾構造を対照するため、節の概念を広く捉える。以下、便宜的に分詞節、不定詞節という用語を用いる。

4.1 先行研究

文法書では上記①～④は個々の文法項目としては扱われているが、連体修飾構造における相互の関係や使用条件については言及されていない。連体修飾構造あるいは名詞句に関する先行研究には Kachru (1980), Jain (2000), 西岡 (2005) などがあり、それぞれ分析がなされているが、各構造の使用条件については記述が不十分である。本稿ではヒンディー語の連体修飾構造

を「内の関係」「外の関係」の観点から考察し、各構造の使用条件の概略を示す。特に「外の関係」の連体修飾は先行研究でもほとんど分析されておらず、本稿では日本語と対照しながら詳しく見る。

4.2 「内の関係」

4.2.1. 分詞を用いた連体修飾構造（分詞節）

これは英語の現在分詞 (-ing) / 過去分詞 (-ed) が名詞を修飾する構造に似ており、未完了分詞 / 完了分詞が助動詞 *huuaa*⁸ を伴って名詞を修飾する（修飾節前置型）。次例(19)は未完了分詞、(20)は完了分詞を用いた連体修飾の例である。

(19) vah [cal-tii huii] gaaRii=se kuud paR-aa.
3SG 動く-IMPF.F AUX.F 列車.F.SG=ABL 飛び降りる-PFV.M.SG

「彼は走っている列車から飛び降りた」 (Kachru 1980: 28)

(20) yah [mere dost=kii likh-ii huii] pustak hai.
これ 1SG.GEN.M.OBL 友人.M.SG.OBL=GEN.F 書く-PFV.F AUX.F 本.F.SG COP.PRS.3SG

「これは私の友人が書いた本です」 (田中・町田 1986: 120)

分詞節は上例のように動作の進行や完了の状態表現に用いられる。しかし、この構造では元の文の主語（上例(19)：列車が走っている）と直接目的語（(20)：私の友人が本を書いた）しか修飾することができない（＝関係節化できない）。また、日本語の連体修飾節では節内の動詞を否定できるのに対し（例：「動いていない路線」「試験を受けなかった学生」）、ヒンディー語の分詞節では否定できない（Jain 2000: 52）という制約がある。

4.2.2. 関係詞節

これは関係詞を用いたいわゆる関係節である。ヒンディー語の関係詞節の構造は相関的構文（*correlative construction*）と呼ばれるもので、関係詞とそれに呼応する相関詞（遠称詞または近称詞）が用いられる。修飾節は主名詞の後ろに置かれるか（修飾節後置型：次例(21), (23)）、主名詞の前後に置かれる（修飾節周囲型＝主要部内在型：(22)）。

(21) jo laRkaa [so rah-aa thaa] vah śor=se jaag
REL 男の子.M.SG 眠る PROG-M.SG AUX.PST.M.SG COR 騒音.M=INST 目が覚める
gayaa.

行く .PFV.M.SG

「眠っていた男の子が騒音で目を覚ました」 (Kachru 1980: 30)

(22) [raam=ne jo kitaab xariid-ii] vah bahut mahangii thii.
ラーム=ERG REL 本.F.SG 買う-PFV.F.SG COR とても 高い.F COP.PST.F.SG

「ラームが買った本はとても高かった」 (Kachru 1980: 29)

(23) aise tiin chaatra hāī [jin=ke pitaa DaakTar
 このような 三 生徒.M.PL 存在する.PRS.3PL REL.PL=GEN.M.PL 父親.M 医者.M
 hāī].

COP.PRS.3PL

「父親が医者である生徒が三人いる」 (Jain 2000: 53)

この構造では Keenan & Comrie (1977) の名詞句接近可能性階層のうち、ほぼ全ての階層の名詞句を関係節化できる⁹。すなわち、関係詞節は分詞節では関係節化できない階層の名詞句（例えば上例(23)の属格名詞句）も関係節化できる¹⁰。

4.3 「外の関係」

4.3.1. 不定詞を用いた連体修飾構造（不定詞節）

ヒンディー語では修飾節が主名詞を「内容補充的」に修飾する「外の関係」の連体修飾が成立し、不定詞を用いて表される（修飾節前置型）。不定詞は名詞を直接修飾することができず、間に属格後置詞 *kaa* を挟む必要がある（この構造では属格後置詞 *kaa* が中国語の「的」のように連体修飾構造の標識になっている）¹¹。

以下、寺村（1992）の分類（3.2 節）に従い、「外の関係」の用例を挙げる。

① 発話・思考の名詞……「言葉」「手紙」「命令」「噂」, 「思い」「考え」「期待」「意見」など

(24) [un=ke paarTii choR-ne=kii] carcaa
 3PL=GEN.M.OBL 党.F.SG 離れる-INF.OBL=GEN.F 話；噂.F.SG
 「彼が離党するという噂」 (JHD077R)

(25) [dahez na lene de-ne=kaa] caTTaanii sankalp
 持参金.M NEG やり取りする-INF.OBL=GEN.M.SG 堅い 決意.M.SG
 「持参金をやり取りしない堅い決意」 (HJD0390R)

属格後置詞 *kaa* は後続する主名詞の性・数・格に応じて *kaa* /*ke* /*kii* と変化する。この構造は分詞節（4.2.1 節）とは異なり、修飾節内の動詞を否定できる（上例(25)）。

② 「コト」を表す名詞……「事実」「話」「習慣」「歴史」「夢」「可能性」「仕事」「方法」など

(26) [bacat kar-ne=kii] aadat Daal-o.
 貯金する-INF.OBL=GEN.F 習慣.F.SG 身につける-IMP
 「貯金する習慣を身につけなさい」 (HJD0087L)

(27) deś=kaa pratyek naagrik [raatō raat maalaamaal ban-ne=ke]
 国.M=GEN.M.SG 各々の 市民.M 一夜にして 大金持ち なる-INF.OBL=GEN.M.OBL
svapnō=mē kho gayaa.
 夢.M.PL.OBL=LOC 我を忘れる 行く.PFV.M.SG

「国民全員が一夜にして大金持ちになる夢に我を忘れた」 (HJD1146R)

寺村 (1992: 283) は「コト」を表す名詞として、「方法」「準備」「資格」「目的」その他、内容の修飾節が「……するための」あるいは「……するだけの」ということを表す場合を挙げているが、ヒンディー語でも同様の例が見られる。

(28) [cunaav=mē mat de-ne=kaa] adhikaar
選挙.M.SG=LOC 投票する-INF.OBL=GEN.M.SG 権利.M.SG
「選挙で投票する権利」 (古賀 1986: 170)

(29) ... [nahaa-ne=kii] himmat nahī̄ huii.
沐浴する-INF.OBL=GEN.F 元気; 気力.F.SG NEG 生じる.PFV.F.SG
「(余りの寒さに) 沐浴する元気が出ない」 (HJD1425L)

③ 感覚の名詞…… 「姿」「形」「色」「音」「匂い」「味」「感触」「絵」「写真」「光景」など

(30) [machliyā̄ tal-ne=kii] gandh
魚.F.PL 揚げる-INF.OBL=GEN.F 匂い.F.SG
「魚を揚げる匂い」 (HJD0319R)

(31) [kuē=par kisii=ke aa-ne=kii] aahaT huii.
井戸.M.SG.OBL=LOC 誰か=GEN.M.OBL 来る-INF.OBL=GEN.F 気配.F.SG 生じる.PFV.F.SG
「井戸に誰かが来る気配がした」 (Premchand, *Thakur ka Kuan*)

④ 「相対性」の名詞…… 「上⇔下」「前⇔後」「(当日) ⇔翌日」「原因⇔結果」「罪⇔罰」など

(32) [aaraam kar-ne=ke] baad cal-ēge.
休息する-INF.OBL=GEN.M.OBL 後.M.OBL 出かける-FUT.1.M.PL
「休息した後で出かけましょう」 (田中・町田 1986: 90)

(33) [jaapaan aa-ne=ke] agle din
日本 来る-INF.OBL=GEN.M.OBL 翌日.M.SG.OBL
「日本にきた翌日」 (www.nhk.or.jp/lesson/hindi/learn/story/index.html)

(34) [buxaar=ke phail-ne=kii] vajhō=kii jā̄c
熱.M=GEN.M.OBL 広がる-INF.OBL=GEN.F 理由.F.PL.OBL=GEN.F 調査.F.SG
「デング熱が広がっている理由の調査」 (BBC061002_delhi_dengue)

(35) [śikSaa=par itnaa kam xarc kar-ne=kaa] natiijaa
教育.F=LOC これほど 少なく 費やす-INF.OBL=GEN.M.SG 結果.M.SG
「(パキスタンが) 教育にこれほど金をかけなかった結果 (は低い識字率である)」
(http://business.bhaskar.com/article/pak-must-pay-attention-on-education-1041090.html)

(36) [kaam nahī̄ kar-ne=kaa] asar us=ke vazan=par
仕事.M NEG する-INF.OBL=GEN.M.SG 影響.M.SG 3SG=GEN.M.OBL 体重.M=LOC

paR-aa.

出る-PFV.M.SG

「仕事をしなかった影響が彼女の体重に出た (=体重が増えた)」

(http://hindi.webdunia.com/entertainment/film/gossip/0707/17/1070717048_1.htm)

(37) [rasoi=mē binaa pair dho-ye cale jaa-ne=ke]

台所.F.SG=LOC ~せずに 足.M 洗う-PFV.M.PL 入る-INF.OBL=GEN.M.OBL

daND=mē māī=ne use ulTaa laTkaa diyaa thaa.

懲罰.M.SG=LOC 1SG=ERG 3SG.DAT 逆さ吊り.M.SG 与える.PFV.M.SG AUX.PST.M.SG

「台所に足を洗わずに入った罰として私は息子を逆さ吊りにした」

(Premchand, *Kaptan Sahab*)

不定詞節は「相対性」の名詞のうち、「前⇔後」「(当日) ⇔翌日」などの時間的な前後関係や「原因⇔結果」「罪⇔罰」などの因果関係を表す名詞は関係節化できる。しかし、日本語と異なり、「上⇔下」「横」などの空間的な関係を表す名詞(例: [私が勉強している] 横で弟はテレビを見て笑っている)は関係節化できない(インフォーマント調査による)。

なお、ヒンディー語では寺村(1992)の「短絡」の例や松本(1993, 1994)の意味論的・語用論的知識が必要な例(3.3節)を連体修飾構造で表すことはできない(プラシャント・パルデン氏(国立国語研究所)の教示による)。

4.3.2. 同格節

「外の関係」は同格節でも表される(修飾節後置型)。

(38) raajan=ko aaśaa hai ki [use naukrii
ラージャン=DAT 期待.F.SG 存在する.PRS.3SG CONJ 3SG.DAT 仕事.F.SG
mil jaa-egii].

見つかる 行く-FUT.3.F.SG

「ラージャンは仕事が見つかるだろうという期待を抱いている」 (Kachru 1980: 38)

(39) us=kaa yah daavaa ki [muniis̄ ghuus le-taa hai]
3SG=GEN.M.SG COR 主張.M.SG CONJ ムニーシュ 収賄する-IMP.F.M.SG AUX.PRS.3SG
bilkul sahii hai.

全く 正しい COP.PRS.3SG

「ムニーシュが収賄しているという彼の主張は全く正しい」 (Kachru 1980: 28)

上例で同格節を導く接続詞 *ki* は英語の *that* に相当する。(38)では同格節が *aaśaa* 「期待」の内容を、(39)では *daavaa* 「主張」の内容を表している。同格節は上述の他の連体修飾構造と異なり、節内に空所はなく、完全な文になっている。

不定詞節と同格節は言い換え可能な場合もあるが、実際の用例を見ると、前者より後者のほうが比較的修飾節が長い¹²。以下、同格節の例をもう 2 例挙げる。(41)については同じ主名詞

(aadat 「習性；癖；習慣」) で不定詞節の例(26)と比較されたい。

(40) ek anumaan hai ki [pichle 15 varSō=mē haathiyō
 一 推定.M.SG 存在する.PRS.3SG CONJ 過去 15 年.M.PL.OBL=LOC 象.M.PL.OBL
 =ne vahāā 600=se adhik logō=kii jaan le lii hai].
 =ERG そこで 600=より 多い 人々=GEN.F 命.F 奪い取る.PFV.F.SG AUX.PRS.3SG
 「アッサム州では過去 15 年間に象が 600 人以上の命を奪ったという推定がある」
 (BBC050608_elephants_chillibomb)

(41) ham logō=kii ajiib aadat hai ki [naye aadmii=ke baare mē
 1PL=GEN.F 奇妙な 習性.F 存在する.PRS.3SG CONJ 新しい 人.M.SG=について
 sab kuch jaan-naa caah-te hāī].
 全部 知る-INF 欲する-IMPF.M.PL AUX.PRS.1PL
 「私たちには新しい人のことを何もかも知りたいという変わった習性がある」
 (Asgar Vazahat, Garjat Barsat)

5. まとめ

本稿では、日本語とヒンディー語の連体修飾構造を対照し、寺村 (1992) の「内の関係」「外の関係」の類型がヒンディー語の連体修飾構造の分析にも有効であることを示した。日本語は修飾節前置型を典型とし、「内の関係」も「外の関係」も同じ構造で表される。一方、ヒンディー語には修飾節前置型と後置型があり、修飾節内の動詞が非定形の場合 (分詞節, 不定詞節) は前置型, 定形の場合 (関係詞節, 同格節) は後置型をとる。これに「内の関係」「外の関係」を重ねたものが以下の表である。

表 1 ヒンディー語の連体修飾構造の分類

	修飾節前置型 (非定形動詞)	修飾節後置型 (定形動詞)
内の関係	分詞節 (動作の進行/完了の状態表現)	関係詞節 (ほとんど全ての階層の名詞句の関係節化)
外の関係	不定詞節 (簡略な内容補充)	同格節 (長い文による内容補充, テンスの明示)

本稿では「外の関係」、特に不定詞節による連体修飾を詳しく見た。用例分析とインフォーマント調査の結果、寺村 (1992) の「ふつうの内容補充」はヒンディー語でも関係節化できるが、「相対的補充」の一部 (空間的な関係を表す名詞) は関係節化できないことがわかった。

「外の関係」は不定詞節のほか同格節でも表されるが、両者の詳しい使用条件 (主名詞の違い, 言い換えができる/できない場合の統語的な違い) については今後の課題としたい。

注

- ¹ 本稿の内容は今村（2008）の一部に加筆を施したものである。
- ² 本稿では修飾節とその修飾を受ける主名詞を合わせた全体を連体修飾構造と呼ぶ。
- ³ 主要部内在型（例：「太郎が鯛をつってきたのをみんなで食べた」（大島 2010: 237））も見られる。
- ⁴ 「連体修飾のシンタクスと意味（その1～その4）」の表題で1975-78年にかけて発表された論文を再録したもので、本稿では寺村（1992）と呼ぶ。
- ⁵ 通言語的にどのような文法関係の名詞句が関係節化されやすいかという階層。主語（SU）＞直接目的語（DO）＞間接目的語（IO）＞斜格名詞句（OBL）＞属格名詞句（GEN）＞比較の対象（OCOMP）の順で、左に位置する名詞句（上位レベル）ほど関係節化されやすい。
- ⁶ 主名詞によって修飾節との間に「という」が介在するが、「という」の介在可否、および可の場合それが必要か任意かは、修飾節の陳述度も関わっており複雑である。詳しくは寺村（1992: 261-296）を参照のこと。
- ⁷ (10)で「私たちが勉強をしている」のは「下」であり、「誰かが柔道の練習をしている」のが「上」である。同様に、(12)で「火事が広がった」のは「結果」であり、「空気が乾燥していたこと」が「原因」である。
- ⁸ 英語のbe動詞に相当するhonaaの完了分詞。後続名詞の性・数・格に一致する。huuaaはしばしば省略されるが、未完了分詞とともに使われた場合は「進行中」を、完了分詞とともに使われた場合は「完了」を強調する（Snell & Weightman 2003: 231）。
- ⁹ 関係節は主語から属格名詞句まで関係節化できる。しかし、比較の対象を関係節化すると不自然な文になる（Kachru 1980: 31）。
- ¹⁰ 「内の関係」の連体修飾構造と関係節化の可否の詳細は今村（2008）を参照されたい。
- ¹¹ 不定詞を用いた連体修飾構造には属格後置詞kaaの代わりに文法的要素-vaalaaを伴う構造（主に「内の関係」の連体修飾（主語の関係節化）に使われるが、「外の関係」の連体修飾にも使われる）もあるが、紙幅の都合上、本稿では割愛する。
- ¹² 西岡（2005: 90）も「文が長くなればなるほど、後置修飾型の定形節が使用される傾向にある」と述べている。

略号一覧

1,2,3=人称; ABL=奪格; AUX=助動詞; CONJ=接続詞; COP=コピュラ動詞; COR=相関詞; DAT=与格; ERG=能格; F=女性; FUT=未来; GEN=属格; IMP=命令; IMPF=未完了; INF=不定詞; INST=具格; LOC=所格; M=男性; NEG=否定; OBL=斜格; PFV=完了; PL=複数; PROG=進行相; PRS=現在; PST=過去; REL=関係詞; SG=単数（グロスのハイフン ‘-’ は形態素境界、等号 ‘=’ は接語境界を表す）

用例出典

BBC: BBC Hindi (<http://www.bbc.co.uk/hindi/>)

Gadya Kosh (<http://www.gadyakosh.org/>)

HJD: 古賀勝郎・高橋明（編）（2006）『ヒンディー語＝日本語辞典』大修館書店

JHD: 古賀勝郎（編）（1996）『日本語－ヒンディー語辞典』（私家版）

Premchand: Munshi Premchand's Stories (<http://munshi-premchand.blogspot.com/>)

参考文献

- 今村泰也 (2008) 「日本語とヒンディー語の関係節の対照研究—関係節の種類と特徴, 関係節化の可能性について—」『麗澤大学紀要』 87: 15-38
- Jain, Sushama (2000) *Structures of Japanese and Hindi*. New Delhi: Har-Anand Publications.
- Kachru, Yamuna (1980) *Aspects of Hindi Grammar*. New Delhi: Manohar Publications.
- 加藤重広 (2003) 『日本語修飾構造の語用論的研究』 ひつじ書房
- Keenan, Edward L. and Bernard Comrie (1977) Noun phrase accessibility and universal grammar. *Linguistic Inquiry* 8: 63-99.
- 古賀勝郎 (1986) 『基礎ヒンディー語』 大学書林
- 李 周容 (2005) 「日本語連体修飾節構造の意味的機能について」『名古屋大学言語学論集』 20: 109-139
- 松本善子 (1993) 「日本語名詞句構造の語用論的考察」『日本語学』 12 (11): 101-114, 明治書院
——— (1994) 「意味から見た連体修飾のいろいろ」『言語』 23 (9): 124-127, 大修館書店
- 西岡美樹 (2005) 「ヒンディー語のいわゆる名詞句について—属格後置詞 ‘kā’ を中心に—」『京都産業大学論集』 (人文科学系列) 33: 74-98
- 大島資生 (2010) 『日本語連体修飾節構造の研究』 ひつじ書房
- 大関浩美 (2008) 『第一・第二言語における日本語名詞修飾節の習得過程』 くろしお出版
- Snell, Rupert and Simon Weightman (2003) *Teach Yourself Hindi*. Sevenoaks: Hodder & Stoughton.
- 田中敏雄・町田和彦 (1986) 『エクスプレス ヒンディー語』 白水社
- 寺村秀夫 (1992) 『寺村秀夫論文集 I—日本語文法編—』 くろしお出版